

創立10周年に寄せて



鹿児島県知事
須賀龍郎

鹿児島県工業技術センターは、工業技術の高度化、複合化に対応するとともに、本県の工業技術振興の先導的・指導的役割を総合的に発揮するため、工業試験場、機械金属技術指導センター及び木材工業試験場の3機関を再編統合して、昭和62年12月に創立されました。

この間、地域資源の有効利用や先端技術に関する研究開発の推進と、技術情報の提供や技術相談・指導に取り組み、地域企業の技術開発や技術力向上のための中核的支援機関としての役割を果たしてまいりました。また、海外からの研修生の受け入れや、研究員の海外への長期派遣を実施するなど、技術の国際交流にも積極的に取り組んでおります。

最近では、様々な分野で研究開発の成果を上げつつあり、シラスを利用した超微粒シラスパルーンや、電磁波による誤動作部分の検知システム、丸太の等級区分装置、新規焼酎用酵母などの開発に成功しております。また、本年11月20日に開催された地方自治法施行50周年記念式典において、工業技術センターは地方自治功労者として自治大臣から表彰されるという栄誉に輝きました。

工業技術センター創立10周年を記念して、本年11月19日に開催された「技術立県シンポジウム」において、「鹿児島宣言」が発表され、本県は、21世紀に向けて、自然と共生する技術立県鹿児島の構築を目指すことが高らかに宣言されました。

現在、県では「うるおいと活力に満ちた鹿児島の創造」を目指し、鹿児島県総合基本計画第3期実施計画を策定中ですが、「鹿児島宣言」に掲げられた、地域産業の高付加価値化と新規産業の創出、創造的な人材の育成、産学官の連携強化による独創的技術開発の基盤強化、などの諸施策の着実な実施を通じて、活力ある産業群の形成に努めることとしております。

工業技術センターの役割は、これからますます重要なものとなってまいりますが、10周年を契機に、産業界、学術機関等との連携を一層強化しながら、新商品の開発や新規産業の創出につながる研究開発に積極的に取り組み、「地域企業の技術的拠りどころ」としての機能をさらに高めてまいり所存です。

最後に、この10年の間、工業技術センターの業務運営にご協力をいただいた業界各位・関係諸団体の皆様方に深く感謝いたしますとともに、今後一層の御理解と御協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

発刊に寄せて



鹿児島県工業技術センター
所長 廣末 英晴

鹿児島県工業技術センターは昭和62年12月に創設され、このたび10周年を迎えました。ここにこれまでの当センターの推移および実績をまとめ、今後のあり方を考えるためにこの小史を刊行することにいたします。

10年前に既存の試験研究機関を統合して国分・隼人テクノポリスの中核試験研究機関として当工業技術センターが設立されて以来、皆様方のご支援、ご協力をえながら県内中小企業の技術力向上を目指して研究開発機能の向上、技術支援事業の充実に取り組んできました。

この10年間に取り組んだ国庫補助事業は現在行っているものも含めて11件、一方技術支援事業の一環として取り組んでいる技術相談・指導、依頼分析・試験が毎年それぞれ2千件から3千件を数えています。これまでに国庫補助事業、単独研究、共同研究などを通じて取得した特許が19件、出願中のものを含めると29件になります。

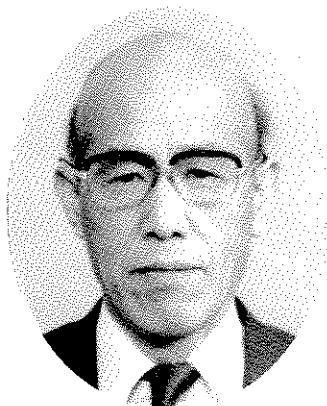
組織も平成8年4月に発足以来の2室7部制から9部制に改編し、機能の拡充・強化を図りました。また施設も产学研連携研究開発施設として“鹿児島県システム技術開発センター”が8月末に完成し、また県内企業の方々の高度な試験、検査が可能となる施設“鹿児島県R&D支援センター”も年度内には完成する予定であります。

今後はこのように充実、整備された組織、施設を活用して、急速に進展しつつある世界規模での技術革新に対処して、更に研究開発機能の向上を図りますとともに技術支援事業の高度化を図り、地元の中小企業の技術的拠りどころとなる責務を果たしていく覚悟であります。今後ともより一層のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

おわりに本記念誌を発刊するに当たり、執筆および編集にご協力をいただきました各位に対してお礼を申し上げますとともに心から感謝いたします。

平成9年12月

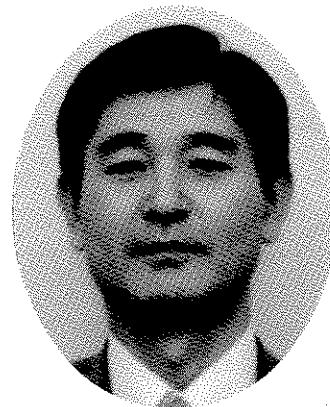
歴代所長



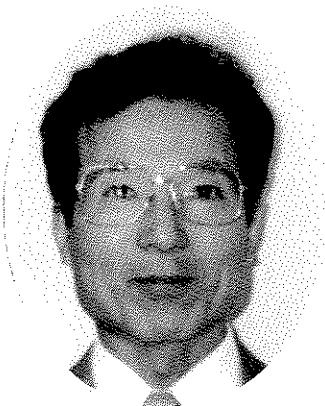
初代所長
竹盛 欣男
(S62. 12～S63. 7)



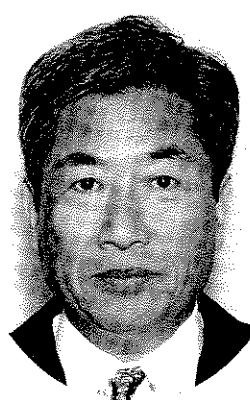
第2代所長
今川 耕治
(S63. 8～H3. 9)



第3代所長
陣内 和彦
(H3. 10～H6. 5)



第4代所長
原 尚道
(H6. 6～H8. 11)



現所長
廣末 英晴
(H8. 12～)